

タイを訪問して

多くの方々に心配をしていただきましたが、無事タイから帰国しました。今回はバンコクの病院の医師（Racksadawan 先生）から招待されて、磁気刺激に関する講演と、実際のデモを行うために出かけました。併せて、11月に開催予定のアジアオセアニアの運動障害学会の開催地であるパタヤの状況の視察もかねていました。それぞれについて、少し報告します。

タイでの病院

磁気刺激装置がまだそれほど普及していないタイですので、講演は一般的な磁気刺激のやり方に関するもので、少しは役立ったと思います。講演が開催されたバンコクの病院は私的な病院で、裕福な方々を対象とした施設で、国内の患者さんより、アラブの国々の方、中国の方などを対象としているとのことでした。そこで、重要なことは費用がいくらかかるかではなく、素早く(できれば1日以内に)、最新の器具を用いた結果を含めてあらゆる結果が得られるということだそうです。そこで、必要な検査機器を十分な数そろえており、脳波計は15台くらいあり、筋電図の機械も同じものが3つ外来にあり、他に病棟にもあるということでした。また、病院はいかにも病院という雰囲気ではなく、ホテルに来ているような印象を受けるように、新しいシステムを取り入れ、病棟と病棟をつなぐコネクションのところに、スターバックス、マクドナルド、寿司バーなどの食品以外に、銀行、シャネルなどのブランドの店も入っている作りになっていました。病院の経営者は、高速道路も経営している人で、全国に50の病院を持っていて、所在地に合わせて経営方針を決めているということでした。医療提供はビジネスであるというコンセプトで、自分の国で新しい事をするのではなく、海外の最先端の技術を輸入して、裕福な人に提供するだけで良いという考え方をとっています。ただ、最新の技術を結局多くの外国人に提供しているのみで、タイの国の人にあまりメリットがないという批判は当然起きているようです。この経営方針に驚くとともに、日本の医療提供の平等さを実感しました。このようなビジネスが成り立つもう一つの原因は、タイのロケーションにあります。シンガポールも同じような医療提供を行っていますが、タイのほうがアラブの国から距離が近いという点で経営を成り立たせているようです。日本は、国外に医療を提供するに値するレベルを持っていますが、日本に来るまでの時間がかかりすぎると感じました。また、タイにおける、国内の人の格差が様々な面で影響を及ぼしているということを感じました。



図1 バンコク病院の正面



図2 病院の玄関 ワールドカップの結果を表示

パタヤと言う場所について

パタヤはタイのリゾート地で、図3、4に示すように、きれいな海岸のある楽しい場所です。国策で進めた会議場もあり、国際学会をおこなうのには、最適な場所でした。最新の設備、高速 Wi-Fi が会場のどこでも使用できる環境と申し分ありませんでした。今年の11月にアジアオセアニア運動障害学会がパタヤで開催される予定ですが、最適な場所と思いました。このことに関しては、詳しい記事を英語で書きましたので、是非 MDS のホームページを参照してください。



Fig 3 Pattaya beach viewed from The Hilton Hotel.



Fig4. Another beach in Pattaya.

タイの安全性

外務省の海外渡航の欄では、ずっとタイは“注意”の状態になっています。確かに軍隊が国政を掌握している政治状況で不安定ではあります。ただ、この争いは国王・政治家・軍隊の力争いと、継続者の争いのようで、一般市民の生活にはほとんど影響がないようです。また、空港・町中と旅行者にも影響していませんでした。夜に通りを歩いていても、危険な感じがなく、以前来たときのバンコクと大きな変わりはありませんでした。長い目でみると、タイ社会の上流階級と一般市民との格差の大きな差が、問題の本質としてあるように思いました。この解決には、非常に長い時間と、様々な過程が必要だろうと考えます。

国際学会のプログラムを次のページに添付します。

**4th Asian and Oceanian
Parkinson's Disease and
Movement Disorders Congress
Pattaya, THAILAND**

November 28-30, 2014

For more information, please visit:
www.movementdisorders.org/AOPMC2014



Important Dates

January 30, 2014 – Abstract Submission Opens

May 15, 2014 – Registration Opens

July 15, 2014 – Abstract Submission Closes

October 22, 2014 – Pre-registration Closes



International Federation of Clinical Neurophysiology



**International Federation of Clinical Neurophysiology
Neurological Society of Thailand
Thai Society of Clinical Neurophysiology
IFCN Clinical Neurophysiology Teaching Course**

**Monday 1st December 2014
Royal Cliff Beach Hotel, Pattaya, Thailand**

- 8.30-9.15 :** Clinical neurophysiological evaluation of psychogenic (functional) movement disorders
Prof. Mark Hallett
- 9.15-10.00 :** Neurophysiological markers of physiological and pathological aging brain
Prof. Paolo Rossini
- 10.00-10.30 :** **Coffee Break**
- 10.30-11.15 :** Clinical and electrophysiological update in ALS
Prof. Reinhard Dengler
- 11.15-12.00 :** Using TMS to study corticospinal tract and its clinical application
Prof. Yoshikazu Ugawa
- 12.00-13.00 :** **Lunch**
- 13.00-13.45 :** Clinical features and pathophysiology of spasticity
Prof. David Burke
- 13.45-14.30 :** Electrodiagnosis in Guillain Barre syndrome and other immune mediated neuropathy
Prof. Lying Cui
- 14.30-15.00 :** **Coffee Break**
- 15.00-15.45 :** Clinical and electrophysiological correlation of small fiber neuropathy
Prof. Renato Verdugo
- 15.45-16.30:** Reflex testing in clinical neurophysiology
Prof. Mark Hallett